

実相寺昭雄 じっそうじ・あきお（映画監督、脚本家／1937-2006）



▶11/26[土]11:00

無常 (R-18)

監督：実相寺昭雄／1970年／モノクロ／スタンダード／35mm／145分／出演：田村亮、司美智子、岡田英次、田中三津子、佐々木功

実相寺昭雄の長篇第一作。旧家の長男・正夫は大学へも行かず、仏像の魅力にとりつかれていた。姉の百合は父母のすすめる縁談に興味を示さなかった。そして、両親が留守の夜、姉弟の関係は一線を越えてしまう。



▶11/26[土]14:00

曼陀羅 (R-18)

監督：実相寺昭雄／1971年／カラー／ビスタ／35mm／135分／出演：岸田森、田村亮、清水紘治、森秋子、桜井浩子

農業とエロチシズムを追求して単純再生産に基づくユートピアを目指す人物をモチーフとして、偶然に巻き込まれた二組の学生カップルが体験する恋人交換、暴行、サディズムなどの地獄めくりを描く。



▶11/27[日]11:00

あさき夢みし

監督：実相寺昭雄／1974年／カラー／シネマスコープ／35mm／120分／出演：ジャネット八田、花ノ本寿、寺田農、岸田森、丹阿弥谷津子

13世紀後半、後嵯峨法皇院政の時代、世捨て人のように日々を過ごす後深草上皇に寵愛された女性が、様々な宮廷の男たちと遍歴を重ねたうえ、権力と愛欲に満ちた宮廷から自由を求めて旅立つまでを映像美によって描く。



▶11/27[日]14:00

哥 オリジナル・ヴァージョン(R-18)

監督：実相寺昭雄／1972年／モノクロ／シネマスコープ／35mm／137分／出演：篠田三郎、八並映子、田村亮、桜井浩子、岸田森

日本人の精神構造を描く『無常』『曼陀羅』に引き続く三部作の完結編。地方の旧家を舞台に、三人の息子たちを中心とした愛欲のもつれが繰り広げられる。劇場公開版より17分長いオリジナル・ヴァージョンでの上映。

映画 川崎ゆかりの

上映スケジュール

- 各回入れ替え制です
- 15分前に開場します
- 開映30分後以降のご入場はお断りします

11/3[木・祝] 11:00 | わかれ雲
14:00 | 大阪の宿

11/6[日] 11:00 | 宇宙人東京に現わる
14:00 | 囁く死美人

11/12[土] 11:00 | 西銀座駅前
盗まれた欲情
14:00 | 赤い橋の下のぬるい水 (R-15)

11/13[日] 11:00 | 人間蒸発
14:00 | あの残像を求めて
午前中の時間割り

11/20[日] 11:00 | 呐喊
14:00 | 異邦人の河

11/23[水・祝] 11:00 | 宵闇せまれば
悪徳の栄え (R-18)
14:00 | 帝都物語 ★上映後トークあり

11/26[土] 11:00 | 無常 (R-18)
14:00 | 曼陀羅 (R-18)

11/27[日] 11:00 | あさき夢みし
14:00 | 哥 オリジナル・ヴァージョン (R-18)

※11/5[土]・19[土]休映

料金

- 当日券のみ(1プログラムにつき)
- 各回上映1時間前から発売します

- ◆一般 600円
- ◆大学・高校生・65歳以上 500円
- ◆小中学生・友の会会員 400円
- ◆未就学児・障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者 無料

アクセス

JR・東急「武蔵小杉駅」からバスで約10分

■北口1番乗り場から川崎市バス

[杉40] 市民ミュージアム行終点下車

[杉40] 中原駅行「市民ミュージアム前」下車すぐ

[溝05] 溝口駅前行「市民ミュージアム前」下車すぐ

■南口「東横線小杉駅」バス停から東急バス

[川33] 市民ミュージアム行終点下車

■横須賀線口2番乗り場から東急バス(※土曜・休日のみ)

[杉05] 市民ミュージアム行終点下車

■当館に専用駐車場はありません。お車で越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。

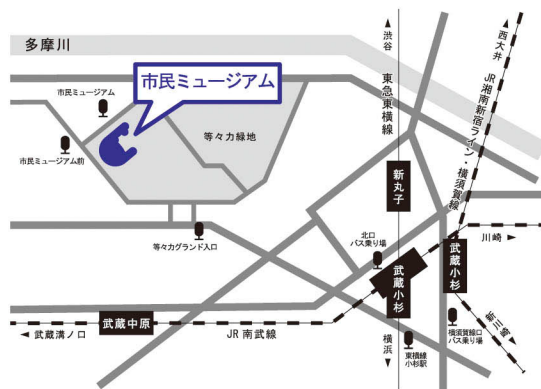
今後の上映予定

●12/3[土]—1/15[日]の土日祝
インディペンデント映画特集

おしらせ

●年末年始休館日
2016.12/29[木]—2017.1/3[火]

●改修工事のため休館します。
2017.1/16[月]—2017.3/31[金]



川崎市
市民ミュージアム

〒211-0052 川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)
TEL.044-754-4500 <http://www.kawasaki-museum.jp>

川崎弘子

『わかれ雲』『大阪の宿』

川崎敬三

『宇宙人東京に現わる』『囁く死美人』

今村昌平

『西銀座駅前』『盗まれた欲情』
『赤い橋の下のぬるい水』『人間蒸発』

岡本喜八

『呐喊』

ジョニー大倉

『異邦人の河』

実相寺昭雄

『宵闇せまれば』『悪徳の栄え』『帝都物語』
『無常』『曼陀羅』『あさき夢みし』『哥』

◆参考上映

『あの残像を求めて』

『午前中の時間割り』

川崎市市民ミュージアム

『宇宙人東京に現わる』©KADOKAWA1956

2016年11月特集上映

川崎ゆかりの映画人

川崎市は多くの監督・俳優などの映画人とゆかりがあります。没後10周年を迎える実相寺昭雄監督(1937-2006)、没後10周年&生誕90周年となる今村昌平監督(1926-2006)、2015年に亡くなった川崎市出身の俳優・川崎敬三氏の追悼上映も兼ねて、今回の特集では当館所蔵作品を中心に上映機会の稀少な作品を取り上げます。

川崎弘子

かわさき・ひろこ

(女優／1912-1976)

川崎市川崎区生まれ。1929年に松竹にスカウトされて女優デビュー。川崎大師の近くで生まれたことから、芸名を川崎と弘法大師にちなんで「川崎弘子」とする。薄幸なヒロイン像を体現してメロドラマで人気を博し、戦前には日本映画屈指のスターとして活躍した。戦後はいったん引退したが、監督たちのたつての願いにより数作品に脇役として出演し、円熟した存在感を発揮した。



▶11/3[木・祝]11:00
わかれ雲

監督：五所平之助／1951年／モノクロ／16mm／101分
出演：沢村契恵子、川崎弘子、沼田曜一、福田妙子

研究のために信州を訪れた女子大生が病氣となり、旅館の女中・おせん(川崎弘子)の計らいで療養することになる。おせんの目を通して、人生の機微を詩情豊かに描く。



▶11/3[木・祝]14:00
大阪の宿

監督：五所平之助／1954年／モノクロ／16mm／122分
出演：佐野周二、乙羽信子、川崎弘子、水戸光子、左幸子

名匠・五所平之助が庶民の哀歓を繊細に描いた傑作。大阪に左遷された会社員を主人公に、下宿屋で働く女中たちの人間模様を物語る。一人息子と離れて働く女中・おつぎを演じた川崎弘子は出色の演技。

川崎敬三

かわさき・けいぞう

(俳優／1933-2015)

川崎市多摩区生まれ。1954年大映のニューフェイスに合格。永田雅一社長が芸名をつけ、川口浩のデビュー以降、品川隆二と鶴見丈二に引き続き京浜東北線の駅名にちなんだ芸名とする方針にそって、川崎市出身ということもあり「川崎敬三」と名付けられた。『こんな奥様見たことない』(1954)でデビューし、人気スターとなる。主演作の他、1950～60年代に若尾文子や山本富士子の相手役としても数多く出演した。



▶11/6[日]11:00
宇宙人東京に現わる

監督：島耕二／1956年／カラー／35mm／87分
出演：南部彰三、目黒幸子、川崎敬三、見明凡太郎、永井ミエ子

原水爆開発を警告するために来た友好的な宇宙人・パイラ星人と科学者たちの交流を描く日本初の本格的カラー特撮映画。川崎敬三は小村博士の愛弟子で娘の許婚・磯辺徹を演じた。パイラ星人のデザインは岡本太郎が担当。



▶11/6[日]14:00
囁く死美人

監督：村山三男／1963年／モノクロ／シネマスコープ／16mm／83分／出演：川崎敬三、万里昌代、花布辰男、耕桜陽子、浜田ゆう子

青年外科医(川崎敬三)は院長の娘と結婚するために邪魔になった恋人の看護婦・不二子を殺した。そして不二子の幻影に怯えるようになる。狂気にとり憑かれていく男を川崎敬三が演じた怪奇サスペンス作品。

今村昌平

いまむら・しょうへい

(映画監督、脚本家、プロデューサー／1926-2006)

東京生まれ。松竹、日活を経て、自身の立ち上げた今村プロダクションにより映画製作を行なう。後進の育成にも尽力し、1975年に設立した横浜放送映画専門学院は、1986年に川崎市新百合ヶ丘に移転して日本映画学校に改称され、多くの映画人を育てた。(2011年より日本映画大学に改組)。平成9年度第26回川崎市文化賞受賞。1983年『楳山節考』、1997年『うなぎ』で、2度のカンヌ国際映画祭最高賞(パルムドール)を受賞した。

▶11/12[土]11:00
西銀座駅前

監督：今村昌平／1958年／モノクロ／シネマスコープ／35mm／52分／出演：柳沢真一、山岡久乃、西村晃、初井言栄、フランク永井

スキヤ橋センター商店街の薬局店主・重太郎は恐妻家だが、浮気をする羽目になり騒動が巻き起こる。フランク永井のヒット曲を題材にした歌謡コメディ。

盗まれた欲情

監督：今村昌平／1958年／モノクロ／シネマスコープ／35mm／92分／出演：滝沢修、菅井きん、柳沢真一、南田洋子、長門裕之

今村昌平の監督第一作。大衆芝居のテント劇場の世界にとびこんだインテリ演劇青年を軸として、大阪・河内でドサ回りをする山村民之助一座のバイタリティあふれる人間模様を描く。

▶11/12[土]14:00

赤い橋の下ぬるい水

監督：今村昌平／2001年／カラー／ビスタ／35mm／119分／出演：役所広司、清水美砂、倍賞美津子、北村和夫、夏八木勲

リストラされた中年男が出会った特異体質の女との奇妙な恋愛関係を寓話的に描いたファンタジードラマ。第25回日本アカデミー賞優秀主演男優賞(役所広司)受賞、第54回カンヌ国際映画祭正式出品。

11.3

[木・祝]／6

[日]

12

[土]／13

[日]

20

[日]／23

[水・祝]

26

[土]／27

[日]

※11/5[土]・19[土]休映

協力：東京国立近代美術館フィルムセンター

岡本喜八

おかもと・きはち

(映画監督／1924-2005)

鳥取県生まれ。1943年東宝に入社するが、召集され陸軍予備士官学校で終戦を迎える。復員後に東宝に復帰して助監督として巨匠監督たちのもとで修行を積んだ後、1958年に監督デビューし、アクションや戦争映画など数多くのヒット作を手がけ、東宝のエースとして活躍。1974年より喜八プロダクションを川崎市多摩区に構え、独立プロダクションとして精力的に映画作りを続けた。平成7年度第24回川崎市文化賞受賞。



▶11/20[日]11:00

呐喊

監督：岡本喜八／1975年／カラー／スタンダード／35mm／93分／出演：伊藤敏孝、岡田裕介、高橋悦史、伊佐山ひろ子、坂本九

江戸から明治への変革期、戊辰戦争に巻き込まれた名もなき若者たちがパワフルに生き延びていくさまを痛快に描く青春群像ドラマ。川崎市出身の坂本九が語り部の老婆役に扮して見事に演じている。

ジョニー大倉

(俳優、ミュージシャン／1952-2014)

川崎市生まれ。1971年に矢沢永吉らとロックバンド“キャロル”を結成して、「ファンキー・モンキー・ベイビー」などを大ヒットさせ、一世を風靡する。1973年『番格ロック』出演により映画俳優デビュー。1975年キャロル解散後に、『異邦人の河』で初めて主演し、1981年に『遠雷』で日本アカデミー賞優秀助演男優賞を受賞するなど、俳優としても活躍した。

▶11/20[日]14:00

異邦人の河

監督：李學仁／1975年／モノクロ／スタンダード／35mm／115分／出演：朴雲煥、大関優子、菅貫太郎、馬淵晴子、中村敦夫／フィルム提供：東京国立近代美術館フィルムセンター

自動車修理工場で働く在日コリアンの青年は日本名を使っていたが、主任へ昇進することになり戸籍謄本の提出を求められたことから転機を迎える。ジョニー大倉は本名の朴雲煥(パク・ウナン)名義で主演し、音楽も担当した。

実相寺昭雄

じっそうじ・あきお

(映画監督、脚本家／1937-2006)

東京生まれ。1959年KRテレビ(現TBS)演出部に入社。ドラマ演出などを手掛けた後、1965年に映画部に転属し、『ウルトラマン』『怪奇大作戦』などを演出。1969年に大島渚脚本による短篇『宵闇せまれば』で映画監督デビュー、1970年にTBSを退社、「コダイ」を共同で設立し、独創的な映画作りを続けた。川崎市麻生区に居住し、筆名として「川崎高」「万福寺百合」を使用。テレビCMや舞台の演出、執筆など幅広い分野で活躍した。

▶11/23[水・祝]11:00

宵闇せまれば

監督：実相寺昭雄／1969年／モノクロ／スタンダード／35mm／43分／出演：斎藤憐、清水紘治、樋浦勉、三留留美子

テレビ演出で活躍していた実相寺昭雄が、大島渚に脚本を依頼して初めて劇場用映画に進出した中篇作品。アパートの一室を舞台に4人の大学生たちの危険な賭けが展開される密室劇。

悪徳の栄え

監督：実相寺昭雄／1988年／カラー／ビスタ／35mm／96分／出演：李星蘭、清水紘治、牧野公昭、石橋蓮司、寺田農

昭和10年の秋、不知火侯爵邸で繰り広げられるマルキ・ド・サドの「悪徳の栄え」の芝居、そして犯罪者ばかりで構成されている劇団員たちの現実のドラマを交錯させて、愛と欲望を描く。



▶11/23[水・祝]14:00

帝都物語

監督：実相寺昭雄／1988年／カラー／ビスタ／35mm／135分／出演：嶋田久作、勝新太郎、原田美枝子、石田純一、姿晴香

荒俣宏原作の同名小説の映画化。明治末から昭和初めにかけて東京改造計画を進める実業家の渋沢栄一とその協力者の寺田寅彦、幸田露伴らに対して、帝都を壊滅しようと企む超能力者が戦いを仕掛ける。

★上映後トークイベントあり

ゲスト：中堀正夫氏(『帝都物語』撮影監督)
聞き手：濱崎好治(当館学芸員)
※トークのみのご入場はできません。

★上映後トークイベント

11/23[水・祝]14:00
『帝都物語』上映後(16:20～16:50)